

第 1187 回放送分『子どもの精神疾患』5 回目

ゲスト：佐々木 なつきドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「子どもの精神疾患」をテーマにお送りしています。

お話は、鹿児島県医師会 佐々木 なつき（ささき なつき）ドクターです。

佐々木さん、最終週もよろしくお願いいたします。

佐々木なつき Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

今日は何について話しいただけますか。

佐々木なつき Dr.

今日は身体症状と解離症についてお伝えいたします。

例えば学校に行きたくないという子どもがいた場合、

朝、頭痛や腹痛がおきたり、下痢になったりと、

実際に体の症状として現れることがあります。

適切な検査を行っても、異常はみられないのですが、

症状は意図的に作り出したり、捏造したものではないんです。

二見いすず

そうなんですね。頭痛や腹痛などの症状があると、

まずは内科を受診したりすると思いますが、

それでも特に異常が見られないという場合、

どのように対応したらいいのでしょうか？

佐々木なつき Dr.

まずは、どのようなときに頭痛や腹痛がおきるのか、

かかえている困りごとを探ることが大切です。

子どもは困っていることをうまく言葉にできなくて、

体の症状として出ることがあります。

二見いすず

確かに子どもは、まだ自分のことを上手に言語化できないことが多いですね。

佐々木なつき Dr.

はい。

体に出ている症状はサインなので、「わざとなんでしょ」などと言ってははいけません。

二見いすず

分かりました。解離症についても教えてください。

佐々木なつき Dr.

はい。これまで話したことは単純にストレスが体の症状として出ているものですが、解離性は、原因と症状が断ち切られています。

不安や苦痛などを意識から追い払い、心の安定を保つことを無意識でやっています。欲望と現実が違うことに葛藤すると、症状が起きやすいです。

二見いすず

具体的にはどのような症状が起きるのでしょうか？

佐々木なつき Dr.

麻痺や痙攣がおきたり、歩けないとか、体の一部の機能の異常として出ることがあります。身体症状として現れるのを転換症状といいます。

また、記憶を喪失するなど精神症状として現れるのを解離症状といいます。

感じていることと動かすことが、自分の中で解離してしまい、自分の体だけど、自分の体ではないようなことが起きているのが解離症です。

二見いすず

このような場合は、周りはどうのように対応したらいいのでしょうか？

佐々木なつき Dr.

否定したり責めたりせず、

危険がないことを確認して、安心できる環境をつくることが大切です。

解離はつらいことから心を守るための防衛反応だと覚えておいてください。

毎回伝えてきましたが、背景にある困りごとを探って対処することが、いつも大切だと思っています。

二見いすず

よく分かりました。

今月は、「子どもの精神疾患」をテーマに

鹿児島県医師会 佐々木なつきドクターに貴重なお話をさせていただきました。

佐々木さん、ありがとうございました。

佐々木なつき Dr.

ありがとうございました。